



言語文化教育研究学会 特別企画

竹田青嗣 講演会

言語ゲームと人間

日時：2017年 2月 3日（金）講演 18:30～19:30

質疑応答 19:30～20:00

会場：早稲田大学早稲田キャンパス22号館502教室

参加方法：参加費無料、予約不要（直接会場にお越しください）

お問い合わせ：contact@alce.jp

特別企画 講演「言語ゲームと人間」 企画主旨

言語教育は何を目指すべきなのか——おそらく ALCE に集う言語教育者たちはこの問いを抱えて、日々自らの現場に向き合っているに違いない。

言語教育の意味や価値を考えるには、時に哲学的な思考が必要となる。伝統的に哲学的思考は、人間の生や社会の本質（意味や価値）を探究してきた。例えば、『純粋理性批判』におけるカントの「アンチノミー」（形而上学の棄却）の議論や、ヘーゲルが『法の哲学』において展開する「自由の相互承認」の議論にその一つの到達点を見ることができるだろう。

そのような哲学の伝統的思考を自覚的に鍛え直したものがこそ現象学的思考である。現象学は社会相対主義や脱構築を乗り越えるための一つの視座を提供する。多様な価値の存在する現代社会における新たな価値の創出と社会システムの構築はいかに可能であろうか。竹田現象学は、ものごとには誰もが納得し得る普遍的な本質があるという立場に則って、本質観取という方法を使ってその本質を明らかにしようとする。このような竹田現象学の思想は、言語教育における市民性形成や多文化共生に関する議論と重なり合う。

本企画では、言語教育における議論を現象学的思考で捉えることを試みる。言語教育は何を目指すべきなのか。竹田現象学はその問いに一つの示唆を与えてくれるだろう。

企画者：稲垣みどり（早稲田大学）、古屋憲章（早稲田大学）

講演者紹介



竹田 青嗣（たけだ せいじ）

1947年大阪生まれ。在日韓国人二世。早稲田大学政治経済学部卒業。現在、早稲田大学国際教養学部教授。哲学者・文芸評論家。在日作家論から出発。文芸評論、思想評論とともに、実存論的な人間論を中心として哲学活動を続ける。大学では、哲学、現象学、現代思想などを担当。プラトン、ニーチェ、フッサール現象学を基礎として、哲学的思考の原理論としての欲望論哲学を構想・執筆中(2017年6月刊行予定)

主な著作：『自分を知るための哲学入門』『現代思想の冒険』『ニーチェ入門』（ちくま新書）、『現象学入門』（NHKブックス）、『中学生からの哲学「超」入門』（ちくまプリマー新書）、『言語的思考へ』『近代哲学再考』（径書房）、『竹田教授の哲学講義21講』（みやび出版）、『人間的自由の条件』（講談社学術文庫）、『超解説 はじめてのヘーゲル「精神現象学」』（西研と共著）、『超解説 はじめてのフッサール「現象学の理念」』（講談社現代新書）『プラトン入門』（ちくま学芸文庫）『哲学は資本主義を変えられるか』（角川ソフィア文庫）ほか多数。